簿記原理Ⅰ

科目ナンバリング　ACC-101
選択必修　　2単位

徳山　英邦

1. 授業の概要（ねらい）

簿記・会計を学ぶと「ビジネス社会における数字の動きを絵でみる」ことができるようになります。絵でみるという意味は、企業の経営活動の概要の一側面がつかめるようになるということです。具体的には、貸借対照表、損益計算書といった財務諸表（決算書）に基づいて経営の動きがイメージできるようになります。この科目は初学者を対象として、「簿記一巡の手続き」の把握、財務諸表の意味を理解するための授業内容になります。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その意義を解説する手順をとります。

2. 授業の到達目標

経済学部の学びの中の本科目の役割として、以下の2つを当初の成果目標とします。
1.企業経営における簿記・会計学の役割を理解し、説明できる。
2.企業経営に関する基礎的理論、事業展開に必要な資金の流れを理解し、説明できる。
上記の学びの成果を基礎として、以下の2つを到達目標とします。
1.実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる。
2.企業経営の場で生起する実践的課題に対処できる専門的な知識・スキルと態度を有する。

3. 成績評価の方法および基準

①自ら学び、吸収する不断（普段）の態度の評価として授業各回のミニッツペーパーや受講姿勢等（65%）、②専門知識の修得力評価として小テスト（2,3回）、LMSを活用した課題（35%）を目安として、総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書
新田忠誓、他著　『エッセンス簿記会計』（第17版）　森山書店
参考文献
新田忠誓　監修　『全経簿記能力検定試験公式テキスト&問題集基礎簿記会計営利分野編』　ネットスクール出版

5. 準備学修の内容

「学びの種を蒔く回」と「収穫（修得）の実感を伴う回」のタイミングが各回で完結しない箇所があります。当日内の答えの照合をあせらずに、試行錯誤する時間を大事にしてください。過去2回分との関連学習60分、学習全体における今回の学びの位置づけの理解30分、その未消化領域の復習30分を目安に学習してください。

6. その他履修上の注意事項

電卓、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス（授業の進め方、成績評価、履修上の留意点）、簿記の導入学習
【第2回】　仕訳と勘定記入①（複式記入の記帳方法の意義：企業会計と家計簿管理の共通点と相違点）
【第3回】　仕訳と勘定記入②（細目管理方法の違い：日付別管理と理由別管理、仕訳帳と総勘定元帳）
【第4回】　仕訳と勘定記入③（集計の帰結の違い：時点把握と期間把握、貸借対照表科目と損益計算書科目）
【第5回】　集計から解ること①（試算表の意義と役割：検証と一覧化）
【第6回】　集計から解ること②（精算表、財務諸表の意義と役割）、勘定科目の意味
【第7回】　現金取引と信用取引（債権・債務関係）①
【第8回】　現金取引と信用取引（債権・債務関係）②
【第9回】　ビジネスの言語による企業活動の描写の意味
【第10回】　簿記手続きの一巡（仕訳から財務諸表の作成演習）①
【第11回】　商品売買取引の記帳法（分記法と三分法）①
【第12回】　商品売買取引の記帳法（分記法と三分法）②
【第13回】　簿記手続きの一巡（仕訳から財務諸表の作成演習）②
【第14回】　売買取引（現金取引と掛取引）と貸借取引、そして交換取引（中立的収支）と損益取引
【第15回】　学修内容の要約